

古今東西 くんぐん 行きます!

郡市長がさまざまな現場を訪問し
市民の皆さまの活動の様子な
どをお伝えします



青葉通仙台駅前エリアで行った社会実験の様子や、新たなにぎわいの創出を目指す都心部のまちづくりについてお伝えします。

街中の新しい過ごし方を体感

緑が美しく輝くケヤキ並木に、商業施設やビルが立ち並ぶ青葉通は、まさに仙台の顔というべき場所。青葉通仙台駅前エリアについて事業者や地権者等の皆さんと連携して、にぎわいや魅力を生み出すための検討を進めています。その将来像を描くための試みとして、9月23日から18日間、道路空間を利

活用した社会実験を実施しました。約100メートルにわたり、車線数を減らして芝生広場を作り、ベンチやテーブルを設置。期間中、さまざまなイベントも開催しました。私も初日に訪問し、ポッチャ体験に参加。順にボールを投げて目標球との距離の近さを競いますが、



駆け引きもあり、一投ごとに歓声が上がります。誰でも気軽に体験できるので、パラスポーツを身近に感じることができ、一緒にプレイすることで交流のきっかけにもなります。また、当日は子どもたちの環境の充実を図る実証実験「あ・そ・び・ば 仙台」も実施しました。自由な遊びを促すプレリーダーが見守る中、多くの親子連れが訪れ、木のおもちゃを組み立てたり、紙コップにペンで絵を描いたりして、楽しそうに遊んでいます。子どもたちは「バス、バス!」と指をさして私に教えてくれるなど、道路の中から見える景色にうれしそう。都心部でも工夫次第で子どもたちの遊び場になる、そんな可能性を感じました。会場には、誰でも自由に演奏できるストリートピアノも設置。軽快なメロディーを奏でる方や、ベンチに座って心地よさそうに耳を傾ける方も見られ、皆さんがくつろいで過ごしている姿が印象的でした。



多彩な魅力を持つ都心へ

青葉通仙台駅前エリアを起点として、都心部全体を巡りたくなるよう、回遊性の向上にも取り組んでいます。令和3年には「勾当台・定禅寺通エリアビジョン」を策定し、多彩な交流とゆとりある雰囲気を楽しめる、このエリアならではの強みを磨き上げる取り組みを進めています。本市のシンボルロードである定禅寺通では、地域の方々が主体となったエリアマネジメント推進体制によるまちづくりも始動。市としても、公共空間を活用したマルシェの開催などの活動を支援するとともに、定禅寺通の再整備に向けた方針を検討しています。

また、市役所本庁舎は建て替えに向け、実施設計の段階を迎えています。まち全体の活性化につながるよう、本庁舎から一番町商店街まで1本の軸線をつなぎ、人が集まり、にぎわいの輪が広がる空間づくりを目指します。本庁舎敷地と勾当台公園市民広場等を合わせてイベントの舞台とする社会実験を行うなど、将来的な一体的利活用を視野に検討を深めてまいります。

楽しむ、働く舞台として人々をひきつけ、市民が誇れる都心へ。都市個性を生かした活力あるまちづくりを進めていきます。



▲上空から見た市役所周辺